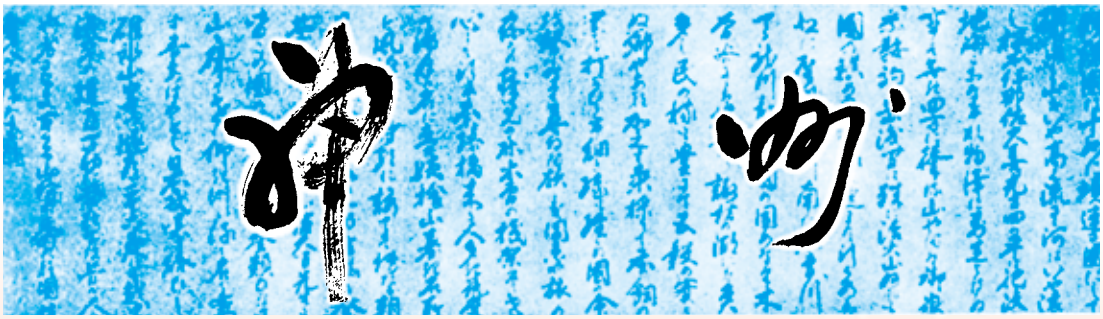

長野県神社庁報　第136号

令和５年１月１日発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
（長野市箱清水1-6-1　電話026-232-3355　FAX026-233-2720）

庁舎氏子会館 地鎮祭　令和４年９月12日　　写真提供：神社新報社

目次

目次・日誌抄　2
庁長・会長年頭の辞　4
長野県神社庁物語　5
神宮大麻全国頒布百五十周年　9
「奉頌～戦後の青年神職たち～」　13
清内路教養研修会　14
塩田平雨乞い行事　15
諏訪神仏一斉公開　16
御造営フォトニュース　17
新任神職の横顔　18
神社本庁表彰　19
神宮大麻頒布始奉告祭斎行　20
寄附者顕彰・辞令　24
令和三年度神社庁歳入歳出決算書
年賀広告
子供参宮団募集案内

日誌抄（令和四年七月～令和四年十一月）

七月

1日　月次祭
5日　庁舎氏子会館建設委員会
5日　理事会
5日　人事諮問委員会
9～10日　雅楽研修会　於　深志神社

12日　総代会監査会・役員会
21日　第百一回定例協議員会
24日　兼任神職祭式研修会
24～25日　初任神職研修会（前期）
26日　教育関係神職協議会役員会
29日　教化部祭祀委員会　於　深志神社

八月

1日　月次祭
4日　庁舎氏子会館建設委員会（特別委員会）　於　滝旅館
9日　教化部調査委員会　於　四柱神社
10～11日　全国教育関係神職協議会全国大会　於　愛知県名古屋市
10日　教化部青少年対策推進委員会
18～19日　初任神職研修会（後期）
22日　神政連県本部役員会
22日　教化部教化委員会
25日　第七十七回連合大会地元打合会　於　佐良志奈神社社務所
26日　庁舎氏子会館建設工事定例会
26日　総代会支会長会　於　ホテルメルパルク長野
27日　県教神協総会　於　上田市

29日　庁報編集委員会
30日　庁舎建設事業「地鎮祭」打合せ

九月

1日　月次祭
5～9日　東海地区中堅神職研修会
当番　静岡県
8日　東海五県参事会　於　静岡県
12日　庁舎氏子会館建設事業「地鎮祭」

12日　神殿例祭
13日　神社本庁教学研究大会（本庁・WEB）
17日　神宮大麻暦頒布始祭
20日　教化部調査委員会　於　深志神社
21日　財政審議委員会
29日　神宮評議員会

十月

1日　月次祭
3日　神宮大麻頒布始奉告祭

6日　全国神社総代会全国大会
於　北海道札幌市
6日　教養研修会　於　下伊那郡
阿智村・岐阜県中津川市
11日　神宮大麻暦頒布委員会
13日　神社本庁定例評議員会
17日　理事会
21日　庁舎氏子会館建設工事定例会
21日　県敬神婦人連合会役員会
24日　庁報編集委員会
25日　教化部青少年対策推進委員会
28日　第七十七回長野県神社庁・長野県神社総代会連合大会
於　上山田文化会館

十一月

1日　月次祭
2～8日　神社御朱印展
於　四柱神社斎館

4日　庁舎氏子会館建設工事定例会
8日　庁舎氏子会館建設委員会（特別委員会）
10日　神道行法錬成研修会　於　神社庁
10日　庁報編集委員会
17日　東海五県神社庁庁長参事会
於　静岡県
18日　庁舎氏子会館建設工事定例会
24日　神社庁新嘗祭
25日　県敬神婦人連合会総会
於　佐久穂町
28日　教化部役員会
29日　神社庁監査会
29～30日　全国教化会議　於　神社本庁

年頭の御挨拶

長野県神社庁　庁長　滝　和人

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

県内各神社の神職総代氏子崇敬者の皆様には、清々しくお揃いで新年をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

昨年中は県神社庁の庁務執行に、深い御理解と絶大なる御協力を賜りまして誠に有難う御座いました。本年も宜しくお願い申し上げます。

畏くも天皇皇后両陛下におかせられましては、愈々お健やかにお過ごしの趣、誠に慶賀の極みに存じます。

神宮の御事につきまして、神宮大麻全国頒布百五十周年を迎え、これを機に原点に立ち返り、祭祀の基幹ともいうべき神棚奉斎のあり方、神宮大麻と氏神様の神札を共に祀る意義啓発に努めるべく決意を新たに致した次第でもあります。

昨年は、新庁舎建設地鎮祭が滞りなく斎行出来、今後上棟祭、遷座祭を斎行し、愈々新庁舎が完成致し、竣功祭をもって皆様にお披露目が出来ます。今年が平穏無事の良い年であります事を願い、皆様の幾久しい御繁栄、御健勝をお祈り申し上げまして新年の御挨拶と致します。

年頭の御挨拶

長野県神社総代会　会長　藤村　吉彦

新年あけましておめでとうございます。

健やかに清々しく新たな年を迎えられたことをお慶び申し上げます。

昨年は内外とも多難な年ではありましたが、本年は穏やかな年であることを祈念致すところでございます。

また長野県神社庁庁舎氏子会館建設事業に対しましても、関係各位の御協力により、昨年九月の地鎮祭を始め種々順調に推移致していることに感謝と御礼を申し上げる次第であります。

県総代会諸事業につきましても総代挙げて挙行出来ますよう格別のご理解、ご協力、ご努力をお願いいたします。

昨今の数々の天災また政治の混乱に起因する国内外の諸問題は混迷を極めておりますが、私たちは神の恵みに感謝し祈願する者として、一致団結し危機を乗り越えていかねばなりません。地域の絆はもとより、地域を超えた絆をも確かなもとし、人々が明るく元気が出るよう後押ししていきたいと存じます。

今年は神様のお恵みを戴き、平和な平穏な幸多い年となりますよう皆様と共に念じつつ年頭の御挨拶といたします。

長野県神社庁物語

新しい神社庁氏子会館の起工を迎え、この機会に長野県神社庁の来歴を顧みたいと思います。

■終戦の詔勅

昭和二十年八月十五日

「朕ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ対シ、其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリ」

終戦の詔勅を拝した神社界は、ポツダム宣言に示された「宗教及思想ノ自由並ニ基本的人権ノ尊重ハ確立セラルヘシ」の文言「宗教の自由」とはいかなる意味をもつものか、どのような措置がなされるのか、憂鬱の心持ちで待っていた。

九月になると、占領軍の狙いは神社と国家の分離であることが明瞭になる。神社が国家の管理を離れ、国家からの支援を得られないのならば今後どうしたらいいのか。大日本神祇会、皇典講究所、神宮奉斎会の関係者は考えた。

昭和二十年十二月十五日

連合軍司令部からいわゆる「神道司令」が日本政府に示され、神社の国家からの分離が命令された。

昭和二十一年一月二十三日

全国から選ばれた神社関係代表者二百名が集まり、吉田茂から神社本庁の設立の趣旨が説明された。二月二日、国家の神祇院官制が廃止された。

昭和二十一年二月三日

宗教法人である神社本庁が設立された。

■長野県神社庁の設立

昭和二十一年二月二十八日

いままで大日本神祇会県本部は長野県庁内にあったが、神道司令により箱清水のもとの仮中教院である皇典講究分所に移っていた。神祇会を解散させ、設立総会を開いた。

昭和二十一年五月六日

神社庁発足の声明より

「・前略・　神官神職は国家の官吏待遇たるの地位特典を辞退し民間人として神明奉仕の匪躬（ひきゅう）を效（な）すことは、実に国家喫緊の用務に応え、神社本来の

建設当時の神社庁舎

城山公園から見た神社庁舎

使命を達成する所以なるを明らかにしたのである。

・中略・　即ちこの指令に遵ひ宗教法人に則り、前記声明の趣旨に基き神社本庁の設立を見、ついでわが長野県神社庁が誕生した次第である。・中略・神職は真に中執持の職任に徹し、いよいよ知徳の練磨修養に志し、至誠恭敬神明に奉仕し、謙虚精励氏子崇敬者の与望に対え、氏子崇敬者就中総代は、神職を補佐し協力し、氏子崇敬者を率いて神社の維持経営に更に一層の力を致されんことを要望念願して已まない。・後略・」

長野県神社庁長　中島正国

官幣大社諏訪神社（諏訪大社）宮司であった中島庁長は声明文の中で、匪躬（ひきゅう）という難しい言葉を使っている。この言葉は、易の中に出てくる言葉で、易の六十四卦のなかで大凶に当たる四大難卦の一つ「蹇（けん）」という行き詰まりの最悪の状態の卦が出た時、ただただ献身的努力すべきことをいう。それほどの困難が戦後にはあり、その困難を乗り越えて今の神社界があるということをいつも頭にいれておかなければならない。

神社庁舎氏子会館建築にはその後十年の月日を待たなければならなかった。

昭和三十年十一月十四日

神社庁神社総代会連合大会が松本市民会館で開かれた。この日、上水内郡牟礼神社総代清水和合治より庁舎氏子会館建設の緊急動議があり、林功郎大会議長がこれを採択万場一致の可決となった。

昭和三十一年三月五日

準備委員会が招集され、設計者を依頼、基礎的な案を決めた。正式決定は同年六月二十六日の協議員会である。これによって、協議員の中から三十五名が委嘱され原案作成小委員会ができた。翌年二月までに数回に亘る委員会が漸次行われたが、この時も一番の難問は建設位置であった。様々な交渉の末、現在地に歩み寄り、決着をむかえたが、この問題は、今回の新庁舎建設の時にも激しくぶり返された。

氏子会館

禊場

昭和三十二年六月二十八日

地鎮起工式

斎主　地元支部長　齋藤吉延宮司、

副斎主　原春苗宮司　他四名奉仕

武藤清文庁長の刈初め

坂戸県神社総代会長の鍬入れの儀

玉串は、長野県知事、長野市長、請負の中部建設社長加藤重蔵他多数

荘厳な盛儀であった。

土地無償提供問題など幾多の課題を乗り越えて、竣工を迎える。

昭和三十三年九月十二日

鎮座祭、翌十三日に落成祝賀式が行われた。この日天気快晴、三年間の苦労が報われる日となった。十二日午後三時高山副庁長が斎主となり厳かに執り行われた。

この時より九月十二日は長野県神社庁にとっては特別な日となり、毎年神殿例祭が行われる日となり、今回の新庁舎地鎮祭が行われる日ともなった。

落成当時、全国にも誇る荘重典雅の殿堂とうたわれる長野県神社庁舎氏子会館も月日の隔ての随々に経年劣化していく。

神殿例祭

平成七年一月十七日五時四六分

阪神淡路大震災発生　死者六千四百余

平成二十三年三月十一日十四時四六分

東日本大震災発生　死者一万八千余

翌日、下水内郡栄村震源による震度六強の地震発生

平成二十六年十一月二十二日

神城断層地震発生

白馬村震源　長野市震度六弱

日本列島は次々に大きな地震に見舞われ、神社庁の大講堂の大ガラスも破損し、耐震強度の見直し、耐震工事の必要性が問われるようになった。

平成二十八年七月六日

理事会にて宇治橋淳庁長より庁舎改築の発議。

平成二十九年三月九日

第九十回定例協議会にて庁舎新築決議。

土地検討委員会と募財計画検討委員会が東北中南信四区から各二名ずつ選出され検討を重ねた。

建設場所としては中南信の関係者は、松本を強く希望し、松本城西の用地を検討委員会で視察する場面もあった。

平成三十年七月

長野市より城山緑地化計画の一貫として県社隣地と現在の場所の交換の申出がある。これにより長野市に建設することがほぼ固まる。

令和元年七月二十六日

第九十五回協議員会にて県社隣地約二五〇坪、募財計画約四億円にて令和二年度より五カ年を目途に開始する旨決議。

募財計画は、小委員会が検討に検討を重ね生み出したものであるが、募財していただく方々に隅々まで趣意が浸透したとは言い難かった。短期間に多額

大講堂のガラスが割れた写真

神城の神社が潰れた写真

の金額を募ることは、神職個々の経済格差もあり、長期募財を望む声や、仕様の見直しコスト削減を望む声もあった。匪躬（ひきゅう）をなす心構えは七十年の歳月と世代の重なりにより次第に薄まっている。

令和二年一月二十一日

会館有効機能諮問特別会議開催

会館は、県内各神社関係統合の事務、関係諸会議に用いる場所としてはもちろんのこと、県内すべての神々を祀る神殿としての機能、県下神職、氏子総代の練磨修養の研修を行う神道伝統文化の継続隆盛のための殿堂であることを、県内全神職氏子総代諸関係者に熟知徹底する必要もあった。

機能充実のため以下の様式が求められる。

工事仕様　鉄骨二階建

一階　一五九坪

神殿　会議室　庁長室　応接室

事務室　書庫　祭具庫　禊所

二階　一一九坪

習礼室　参籠室　倉庫

令和四年三月十五日

長野市との土地交換についての契約書締結。

■新　神社庁舎・氏子会館地鎮祭

令和四年九月十二日月曜日午前十時半、天気晴れ、気温三十一度。長野市箱清水一丁目二四〇九番二において斎行。

奉仕者

斎　主　穂高光雄　副庁長

副斎主　松村健悟　神社庁理事

祭　員　武者幸彦　北佐久支部長

祭　員　遠藤綾子　女子神職会

祭　員　林　剛邦　神道青年会

典　儀　宮澤千尋　祭式講師

伶人（長野雅楽会）

龍笛・和琴　齋藤英之

鳳笙　若槻徹也

篳篥　前田美保

参列者　滝和人庁長・宇治橋淳顧問・前長野市長加藤久雄氏以下八十五名

竣工予定　令和五年九月二十九日

設計管理　株式会社中村建築研究所

施工業者　北野建設株式会社

株式会社アスピア

特定建設工事共同企業体

募財状況は神州一三五号に掲載いたしましたが、募財計画三年目を迎え、ますます県下神職神社関係者一致協力の成果により無事の竣工を祈るばかりである。

地鎮祭献饌

四方祓

『長野県神社百年誌』

『長野県神社庁三十年誌』参照

編集　山崎洋文

神宮大麻全国頒布百五十周年によせて

◆神宮大麻の頒布

九月十七日に「神宮大麻暦頒布祭」が伊勢の神宮の内宮神楽殿で行われ、神宮大宮司より新しい神宮大麻と神宮暦が神社本庁統理に手渡され、各県神社庁長に頒布されました。そうして全国に配られる神宮大麻は、神宮司庁の頒布部で修祓されて、更に大麻を運送する会社では出発するトラックごとに修祓を受けて全国に運ばれていきます。

神宮大麻搬送のトラックの祓い（写真提供：神宮司庁）

十月三日に長野県神社庁では「神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭」が斎行されました。

大麻暦頒布始奉告祭（長野県神社庁）

この行事から、神宮大麻と神宮暦が神社庁から県内各支部へ頒けられることになります。それから各支部からそれぞれの神社の宮司に届けられ、神社氏子地域で更にお祓いとおまつりがされるのです。そしていよいよ年末から年始にかけて氏神の神札と一緒に、神職や役員の手によって各家庭に配られていきます。

神宮大麻は、尊い神宮のご加護が各家庭に授けられるものですから、清浄を期して祓いに祓いが重ねられ家庭の神棚にまつられることになります。

◆伊勢御師の配札活動

神宮が奉製する大麻・暦の全国頒布の基礎が出来た百五十年以前は、どのように大麻は全国に配られていたのでしょうか？

それは伊勢神宮の神職である「御師」が神宮と全国の崇敬者の中を執り持って全国に「御祓い大麻」と「伊勢暦」を配札していました。

もともと神宮には天皇以外が幣帛を

御祓い大麻

お供えすることを禁止する私幣禁断（しへいきんだん）という制度がありました。身分の高い貴族であっても供え物や、私事を祈ることが許されなかったのです。神宮では御師は全国の人々の祈りや願いを神宮に届ける中執り持ちとなり、公家や大名など有力者だけでなく町民や農民にまでお伊勢参りの道を開きました。全国くまなく檀家を持ち、それぞれの受け持ちの檀家を廻り御祓い大麻や伊勢暦を授けることを「壇廻り」、「御祓い配り」といいます。それは佐渡や八丈島などの島嶼や北海道の松前まで及びました。御師たちは神札や暦以外にもいろいろなものを地方にもたらしました。御師のお土産には、宇治茶・熨斗（のし）・青のり・鰹節などの海産物、おしろい・布・帯などの産物がありました。そしてお伊勢参りの意識を高めるとともに参宮に伊勢を訪れた檀家を御師邸でもてなし、特別の祈祷や神楽奉納だけでなく宿泊や飲食、名所案内までも提供しました。このように御師の活動は信仰のみならず観光にも大いに貢献しました。

江戸時代『安永六年外宮師職壇方家数改帳』（一七七七年）では、全国総戸数の八九パーセントまでに大麻頒布がされていたことがわかります。

江戸時代末期には、内宮（宇治）と外宮（山田）を合わせて八百六十四軒を数える御師家がありました。

さて、この御師たちが全国に神宮のお神札を配る「廻壇（かいだん）」の時期は、五月、七月、九月などそれぞれでした。年末にお神札をいただく現代の私たちとは大分違うことがわかります。

◆信濃での御師の活躍

平安時代末期から続いてきた御師ですが、室町時代を経て大いに発展します。長野県では度会文里という御師が文安五（一四四八）年に「信濃国阿加（赤）沢殿一家御内方人々下人以下百姓一円」の知行を記した文書が残されています。また戦国時代の天文十五（一五四六）年には榎倉（えのきくら）修理進武棟という御師の「一信濃国府中小笠原殿、御同名中、御神領共ニ」とあり、当時の松本のことがわかります。天正九（一五八一）年に宇治久家によって「御祓い配り日記」が残されます。宇治久家の檀家は、御厨（みくりや）があった会田・麻績と仁科、そして長野市を指す川中島地方となっています。会田氏は武田氏と同じく翌年に滅亡してしまいますので当時の様子を知る貴重な記録となっています。

また仁科では堤家も有力な御師でした。近世には松本・伊那・飯田は丸岡宗大夫の檀家となっていきます。丸岡宗大夫邸には全国九七六八戸の檀家を持ち、摂津、伊賀、武蔵国葛飾、相模三浦のほか、信州伊那郡六十二ケ村五九六戸と記録があります。なお、現

存している唯一の御師の屋敷は、伊勢市宮町にある丸岡宗大夫邸となっています。

◆北信の御師　荒木田久老・久守

前述のように北信の御師の記録は宇治久家の「御祓い配り日記」によって戦国時代まで遡ることができます。久家の宇治家は荒木田姓を名乗る内宮の権禰宜家で代々麻生口六大夫を名乗りました。

近世になり、麻生口六大夫の檀家は一万九百軒あって、長野市から須坂市相之島まで及ぶ地域となりました。中でも荒木田久老と荒木田久守は学者として知られています。久老は万葉集学者の賀茂真淵門弟で本居宣長と同門であり国学者としても著名でした。御師が犀川の流れる丹波島の渡しまで来ると、町の役人たちは裃に威儀を正し、駕籠を用意して豪華な行列で出迎えたといいます。御師の屋敷は長野市東之門町の太神宮にありました。善光寺住職、商家、豪農らは学問を請いに屋敷を訪れました。

天明六（一七八六）年三月から八月にかけて「廻壇」配札をした模様は『五十槻園旅日記』に詳細に記されています。またその著書『信濃漫録』では万葉集巻第十四相聞歌の「なかまに」の地を長野市柳原に比定したりしました（拙書『神州　百二十四号』「明治天皇長野御巡幸と神武天皇遙拝所」参照）。

御師屋敷跡　長野市東之門町

荒木田久守は善光寺地震で亡くした跡取りを偲ぶ商家に和歌を寄せています。それは長門町の天神社境内に「孝信桜の碑」として残っています。

しかし、学問に大金が掛かる江戸時代に学者を出した荒木田家は経済的に困窮していきました。経済援助に善光寺町檀家世話人たちは何かと奔走しましたが、御師との長年の紐帯は途切れることはありませんでした。

◆悲劇の御師　荒木田久任

江戸時代も終わる頃、荒木田家ではわずか二歳の久任が家督を継ぎ、文久元（一八六一）年に五歳で善光寺町に赴きました。町役人と世話人たちは先例に従い幼い御師を、威儀を正して迎

荒木田久任追悼碑
長野市東之門町　寛慶寺境内

最後の御師 麻生口六大夫、久永の名が見える（長野市N邸）

えに行ったことでしょう。しかし、当時流行していた麻疹に罹り、六歳で夭逝してしまいます。御師屋敷のある東之門町の住人はそれを悼み追悼碑を建立しました。その碑は善光寺隣の寛慶寺境内にひっそりと残されています。

そして久永が継ぎますが、明治四年に御師の活動は禁止され最後の御師となりました。

◆神宮大麻の全国頒布百五十周年

『長野県神社庁百年誌』によると明治五年に安曇野矢原地区で御師堤織部が大麻のお初穂を集めたとあります。この書では「敬神藩主の御領内であったからか、永山筑摩県参事も黙認していたのであろうか」と御師職の廃止後の活動を書き残しています。

明治四年に神宮の制度が公的なものとして改まり、御師の職は廃されました。それにより御師が全国の人々に配札してきた大麻は、明治天皇の大御心によって、各家庭が「朝に夕に皇大御神を慎み敬い拝ましめ給ふ」ことができるように明治五年から「神宮大麻」「神宮暦」として神宮司庁より全国に頒布する態勢となりました。

大麻もお祓いの数を示す串を中心とした形態から、朱印を捺した「御璽（ミシルシ）」と変化しました。終戦後、神宮は国家的公的立場から切り離された状態にありますが、神宮と私たちの紐帯は神宮の尊さに憧れ崇敬してきた信仰とともに、御師が私たちと結んできた信頼関係の上にあるといえるでしょう。

そして令和三年度長野県神社庁大麻頒布委員会の報告では、神宮大麻の長野県頒布率は、世帯数の二七・一パーセントと報告されています。

明治天皇の大御心と神祇省の告諭から百五十周年を迎える私たちは、先人の歩みを振り返り、現在の神社宮司の頒布体制である意義を理解して、これからの神宮大麻頒布のあり方を考えていかなければならないでしょう。

参照『長野県神社庁百年誌』『瑞垣二百四十号』『神道事典』『長野市誌第四巻』『長野市史考』小林計一郎著

編集　齋藤英之

現在、神宮より授与される大麻（写真提供：神宮司庁）

長野県内では、四十歳以下の神職は「長野県神道青年会（略称・神青会）」という組織に所属し、会員相互の親睦を深め、研修や研鑽を重ねております。

「奉頌～戦後の青年神職たち～」

「終戦直後、国体の明徴、御神徳の昂揚、祭祀の厳修という国定は全く破棄されてしまいました。神道指令により神社の存続さえも危ぶまれたので、慌ただしく神社本庁が創立（昭和二十一年）され、各県には神社庁が出来、その中に教学部が設けられ、更に教学部活動の一環として神道青年会を結成することとなりました。

昭和二十三年初夏、長野県神社庁長と教学部長の招集により、長野縣護國神社斎館に県内数え四十才以下の神職が集合。教学部原案の会則を可決して、私が初代会長となり、役員もそれぞれ決まり会が発足したのであります。

その当時は戦時下の反動で、神社に参拝する国民はほとんど無く、此処彼処の鎮守の森も切られたりして荒んだもの。靖國神社の存続は確定したものの、護國神社の存位は未確定、占領下でもありましたので、神道青年会の使命は実に重大でありました。

翌年には全国神道青年会が組織され、東海五県のブロックも結成。東海地区の初会長会は伊勢の神宮で開催。敗戦により御遷宮を延期した神宮に参拝し、その荒廃した社殿を見て、感無量でありました。高倉大宮司・秋岡少宮司から、『昭和二十八年に延期となった御遷宮は、初めて民間によっての御造営となる。何卒協力していただきたい」と懇望された事は遂昨日の事の様に思い出されます。』（同会会報「志なの」昭和五十三年発行／要旨）

長野県神道青年会
初代会長　平林直樹
生年　明治四十二年十月五日
没年　昭和六十三年三月十三日

終戦、占領下という未曾有の国難。神社が置かれた環境の厳しさと、大きく変動する世の中に対応すべく神社関係者が尽力し、現在に至る道筋を創るため奔走する姿がうかがえます。また、長野県神道青年会は神社庁教学部が主導し、全国組織の創設に併せ結成されたことが推察されます。

しかし同時期、県内の青年神職は既に独自の組織活動を活発に行っていた記録があると、深志神社（松本市）の牟禮仁宮司より資料提供がありました。「長野県青年神職会／会報／奉頌（ほうしょう）第三号／昭和二十四年三月発行」

今となっては幻となった青年神職会の活動を、次号以降に追ってみたいと思います。

各神社や神職家で「奉頌」をお持ちの方は、神社庁までご連絡いただければ幸甚です。

編集　平林秀文

清内路教養研修会

教化副委員長　遠藤綾子

三年越しに企画した阿智村清内路の県無形文化財「諏訪神社手作り花火」の観覧研修が十月六日近藤政彰宮司のご高配を賜り開催されました。

奉納前の祓い

この手作り花火は、江戸時代から続く伝統行事で上清内路煙火同士会が毎年奉納をしているそうです。コロナ禍で、一昨年は中止、昨年は地区住民のみの観覧、三年ぶりに一般の観覧が叶いました。同士会は、八月から炭焼き竹切り等の準備を始め、九月に秘伝の火薬作りにはいります。皆、仕事が終わってから、連日の作業になります。

秋が深まる中、無数の火の粉が境内を照らし約三百人を熱気で包みました。青紫色に七分以上も幻想的に光を放つ「ぶどう棚」から始まり、花火を付けた円盤が回転する「大シャクマ」等々、手作り感のある、見たこともない花火、成功を喜ぶ同士会の「オイサ！」の掛け声、「神を近くに感じる」という同士会の意気込みでした。これこそ臨場の感動だと肌で感じ、伝統行事の継続を祈りました。

花傘

ぶどう棚

諏訪神社参道

塩田平雨乞い行事

上田市手塚の舌喰池（したくいけ）で、雨乞い行事「百八手」が三年ぶりに九月二十四日開催されました。当初二十三日の予定でしたが雨により順延されました。

上田市塩田地区は年間降雨量が一〇〇〇ミリにも達しない全国でも有数の少雨乾燥地帯であるため灌漑用のため池が四十一ヵ所あります。江戸時代より日照りの時は、ため池の土手に薪を積み上げ、塩田平の村々で時間を決め村人たちが麦わらで作った松明を持ち寄り一斉に火をつけ「あーめふーらせたんまいな」と唱えながら必死に祈りました。これを千駄だきの雨乞い、あるいは百八手といいます。

写真提供：上田市日本遺産推進協議会

今年は暗闇の中、ほら貝を吹き鳴らし開催を告げ塩田平のため池を愛する会大口義明会長、土屋陽一市長の挨拶後神職三人による大祓詞奏上、お祓い、塩田仏教会僧侶による読経後ゆらゆら揺れるろうそくの炎より一本の松明に点火を合図に一斉に池の畔の大松明に点火されました。古人の願いが水面に映る松明の炎が語っているようでした。

編集　工藤みず枝

諏訪神仏一斉公開

諏訪地域では令和四年十月一日から十一月二十七日まで「諏訪神仏プロジェクト　諏訪神仏一斉公開」が行われました。

これは、明治維新の神仏判然令により諏訪神社（現諏訪大社）より除却された仏像や什器、建物等を引き取った関係二十二寺が諏訪大社、手長神社、八剱神社、諏訪市、下諏訪町博物館と協力して行ったもので、期間前日には上社、終了時には下社にて奉告祭が執行され関係寺院僧侶による神前読経の奉納が約一五〇年ぶりに行われました。

かつては神仏習合といわれましたが、このように神社と寺院が協力する事は神仏分離後初めての事で、今後は神仏融合（習合）が神仏融和となる契機となったのではないでしょうか。

編集　桃井義弘

下社　終了奉告祭

上社　拝殿での読経

御造営フォトニュース Photo NEWS

○諏訪大社

上社本宮西宝殿（諏訪市中洲宮山鎮座）
下社春宮東宝殿（諏訪郡下諏訪町鎮座）
下社秋宮東宝殿（諏訪郡下諏訪町鎮座）

宮司　北島和孝

宝殿改築

当社では式年造営御柱大祭に際して宝殿と称す本殿的性質を持つ建造物の造営を行ないます。今般の御柱大祭においても古儀に倣い上社本宮、下社春宮、下社秋宮の各宝殿三殿を造営しました。

造営に際しての建築用材及び費用は各殿とも氏子崇敬者からの奉賛によるものです。

式年造営御柱大祭は、社殿の造営と御柱の曳建ての部分に大別される祭儀であり、各宝殿はいずれも左右に新旧宝殿が並び建つ形態をとります。さらに造営後は旧宝殿より新宝殿に御霊代の遷座祭が執行され、下社春宮宝殿は令和四年五月十三日に浄暗の中、御霊代の奉遷が行われ、七月十三日には下社秋宮宝殿も遷座祭が行われました。上社本宮宝殿は令和四年六月十五日に多くの氏子崇敬者が拝観する中厳粛の内に遷座祭が行われ無事御造営と御遷座を終了しました。

秋宮

春宮

本宮

○子之社（茅野市北山宮之前鎮座）

宮司　久保田正彦

社務所改築

事業費　約一四〇〇万円

改築前の社務所は、当時の木製の机の裏に残っている墨書から「昭和十二丁丑六月新調　宮之前子之社什物」とあり約八十五、六年前の建築と推定されます。建物全体が老朽化して、改築の話も何度か出されておりました。ここにきて芹ヶ沢区の関係者、氏子総代の熱意も高まり、予算の目処もたち改築することとなりました。

新しい社務所は木造平屋建て約十四・八坪、和風造りの部屋・台所・トイレ・収納スペース等バリアフリーを意識して工夫を凝らしており、念願がかない竣工されました。

地元芹ヶ沢区の区長、宮区長はじめ関係者の皆様、工事関係の皆様には心より感謝し御礼を申し上げます。

大切に利用して参りたいと思います

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔

坂井（さかい）　美春（みはる）　三十歳
諏訪神社祢宜
飯伊支部

此の度、知久平諏訪神社祢宜を拝命致しました。松本市の深志神社にて五年間巫女として御奉仕する中、大阪国学院の通信教育で神職資格を取得致しました。今年度からは出仕となり祭典奉仕等貴重な経験をさせて頂いております。昨年は地元の御柱祭に携わり、この伝統を継承したいと強く感じました。

故郷へ戻り、曾祖父まで代々御奉仕して参りました氏神様に私も御奉仕する夢が叶い、大変有難く支えて頂いた周囲の皆様には感謝の気持ちで一杯です。今後は、地域の方に寄り添い郷土の発展、神社の伝統護持に尽力して参ります。特に氏子の教化育成や神社の広報活動等に積極的に取り組んで参る所存です。先祖に恥じぬように浄明正直の心と深き志を胸に慎んで怠ることなく、惟神の道を歩んで参ります。若輩者ではございますが今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

神社本庁表彰式　功労者を顕彰

神社本庁表彰式が五月二十五日、東京の明治記念館で行われました。

奉仕神社の施設経営に尽力した功労者、敬神の念が厚く多年神社の経営に協力した功労者として神職・役員・総代等二百六十一名が晴れの栄に浴されました。

本県では次の六名が栄誉を受けました。

（敬称略）

○令和三年度功績表彰

表彰規程第二条第一号
御嶽神社宮司　滝　和人

表彰規程第三条第二号
建部社宮司　林　邦匡
戸隠神社宮司　水野　邦樹
湯福神社宮司　齋藤　安彦

表彰規程第三条第三号
鼻顔稲荷神社役員　水澤　健治
若一王子神社役員　山本　勝洋

神宮大麻頒布始奉告祭斎行

令和四年十月三日、神社庁神殿に於いて神宮大麻頒布始奉告祭を斎行。左記の頒布優秀支部及び優良頒布奉仕者に対する表彰が行われました。

（敬称略）

神宮大麻全国頒布百五十周年記念表彰
支部表彰（三支部）
飯伊支部
南安曇支部
長野支部

神宮大麻全国頒布百五十周年記念表彰
頒布奉仕者表彰（六名）
諏訪神社　祢宜　井出行則　南佐久支部
安良居神社　宮司　工藤康高　上小支部
諏訪神社　宮司　茅野建夫　上伊那支部
八幡社　宮司　宇佐美秀臣　飯伊支部
穂高神社　権祢宜　清水克訓　南安曇支部
仁科神社　責任役員　松澤　啓　大北支会

神社庁長表彰　頒布奉仕者表彰（四名）
御穂嶺々美神社　宮司　甲田圭吾　上小支部
佐良志奈神社　宮司　豊城憲和　更埴支部
八幡神社　総代会長　田中　弘　大北支会
伊勢社　主任総代　遠藤富夫　更級支会

寄附者顕彰　令和三年十二月～

神社本庁統理感謝状　三百万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
飯伊	安布知神社	阿智村	後藤　正・後藤玲子

長野県神社庁長感謝状　三十五万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
更埴	自在神社	坂城町	有限会社山岸製作所　会長　山岸幸人
更埴	自在神社	坂城町	デイリーフーズ株式会社
更埴	自在神社	坂城町	株式会社　永和堂
上伊那	梅戸神社	飯島町	上山泰弘・上山喜代子
飯伊	小丸山八幡社	阿智村	永倉隆幸・永倉多賀子

辞令　令和四年五月～

昇級・神職身分二級

若宮諏訪神社	宮司	松村健悟	九・十	上伊那

任命

諏訪神社	兼　宮司	竜野太一	七・一	北佐久
十二神社	兼　宮司	竜野太一	七・一	北佐久

新任

諏訪神社	兼　宮司	竜野太一	七・一	北佐久
眞田神社	兼　祢宜	今井瑛里	七・一	上小
千鹿頭神社	兼　宮司	名取人利	八・一	諏訪
奈良澤神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
愛宕神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
伊勢神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
伊勢神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
諏訪社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
葵神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
稲荷神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
稲荷社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
静間神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
諏訪社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
名立神社	兼　宮司	東なだ雄	九・一	飯水
愛宕神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
伊勢神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
伊勢社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
諏訪社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
葵神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
稲荷神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
稲荷社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
静間神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
諏訪社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水
名立神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水

本務替

諏訪神社（有明山神社より）	宮司	須澤清昭	五・十	南安曇

辞職

諏訪神社	兼　宮司	渡邉　修	六・三十	北佐久
十二神社	兼　宮司	渡邉　修	六・三十	北佐久
諏訪社	兼　宮司	渡邉　修	六・三十	北佐久
奈良澤神社	兼　宮司	東　幸子	八・三十一	飯水

訂正とお詫び

前回の一三五号に掲載しました左の神社について、神社名の誤記載と掲載漏れがございましたので改めて今号にて掲載致し、御関係の皆様には深くお詫び申し上げます。

任命

水上布奈山神社	兼　宮司	宮沢靖久	二・一	更埴
打澤神社	兼　宮司	宮沢靖久	二・一	更埴
須須岐水神社	兼　宮司	宮沢靖久	二・一	更埴

辞職

水上布奈山神社	兼　宮司	宮沢春久	一・三十一	更埴
打澤神社	兼　宮司	宮沢春久	一・三十一	更埴
須須岐水神社	兼　宮司	宮沢春久	一・三十一	更埴

令和３年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部　（単位：円）

款	科目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	740,200	740,000	200	神社本庁より
2	交付金	115,605,600	115,718,000	△112,400	本庁交付金
3	負担金	33,235,000	34,025,000	△790,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	3,752,000	6,000,000	△2,248,000	特別協賛金、寄付金
5	財産収入	517,288	500,000	17,288	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	2,976,000	2,920,000	56,000	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	3,270,005	2,500,000	770,005	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	600,000	600,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	128,000	200,000	△72,000	
11	繰入金	0	0	0	
12	繰越金	24,060,633	18,677,000	5,383,633	
	合計	185,004,726	182,000,000	3,004,726	

歳出の部　（単位：円）

款	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	54,874,346	54,874,346	0	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	7,961,060	8,700,000	△738,940	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会議費	3,115,263	5,200,000	△2,084,737	会議旅費、諸費
4	庁務費	42,347,593	45,160,000	△2,812,407	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	27,008,640	27,008,640	0	神社本庁へ
6	事業費	9,256,201	17,900,000	△8,643,799	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	220,672	200,000	20,672	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	543,590	660,000	△116,410	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	3,317,470	3,400,000	△82,530	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	3,500,000	3,500,000	0	基本金積立金、役職員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設調査費	0	800,000	△800,000	新庁舎建設特別委員会会議費・調査諸費等
13	予備費	0	14,547,014	△14,547,014	
	合計	152,194,835	182,000,000	△29,805,165	

令和３年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書

歳入の部　（単位：円）

	科目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,285,000	3,305,000	△20,000	支部負担金、神職掛金
2	繰入金	700,000	700,000	0	繰入金
3	本庁見舞金	40,000	150,000	△110,000	本庁見舞金２件分
4	雑収入	59	1,000	△941	利息
5	繰越金	5,217,122	5,844,000	△626,878	繰越金
	合計	9,242,181	10,000,000	△757,819	

歳出の部　（単位：円）

	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	627,600	3,685,000	△3,057,400	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,085,000	2,105,000	△20,000	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本庁災害慰藉費	204,015	250,000	△45,985	災害対策資金
4	運営費	2,530	60,000	△57,470	事務費、旅費、雑費
5	予備費	0	3,900,000	△3,900,000	
	合計	2,919,145	10,000,000	△7,080,855	

謹賀新年

長野県神社庁

長野県神社総代会

神道政治連盟
長野県本部

長野県敬神婦人連合会

長野県神道青年会

長野県女子神職会

長野県教育関係神職協議会

諏訪大社

上田市下之郷中池西七〇一
生島足島神社
宮司代務者 池内宣裕
氏子総代長 松澤繁樹
職員総代一同

戸隠神社
名誉宮司 藤井茂信
宮司 水野邦樹
他 職員一同

穂高神社
名誉宮司 小平弘起
宮司 穂高光雄
職員一同

松本市美須々六番一号
長野縣護國神社
宮司 奥谷一文
他 職員一同

松本市
四柱神社
宮司 宮坂信廣
他 職員一同
http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira

深志神社
名誉宮司 遠藤久芳
宮司 牟禮仁
他 職員一同

諏訪市茶臼山鎮座
手長神社
宮司 前島正

武水別神社
宮司 堀内潔人
他 職員一同

若一王子神社
宮司 竹内直彦
大町市大字大町二〇九七

木曽総社
御嶽神社
宮司 武居哲也

木曽御嶽王滝
御嶽神社
宮司 滝和人

飯田市浜井町破魔射場鎮座
冨士山稲荷神社
宮司 市原貴美雄
職員総代一同

佐久総社
新海三社神社
宮司 井出行則
総代会長 中條清一
佐久市田口鎮座

上田市常田鎮座
総社大宮
科野大宮社
宮司 今井貴美
総代会長 宮下憲治

謹賀新年

上田市中央北鎮座
眞田三代崇敬社
大星神社
宮司 関口守和
祢宜 工藤康高
総代長 山崎建治

飯山市小菅の里鎮座
小菅神社
宮司 鷲尾隆男
総代会長 小林忠雄

上伊那郡辰野町
三輪神社
宮司 矢島正稔

上伊那郡飯島町
梅戸神社
宮司 今井泰
祢宜 茅野理也
権祢宜 今井佑

上伊那郡辰野町小野
矢彦神社
宮司 立澤寿江
祢宜 立澤俊輔
総代会長 白鳥義政

大御食神社
宮司 白鳥俊明
祢宜 白鳥操子
権祢宜 富岡清彦
総代会長 新井亮男

木曽郡木曽町福島鎮座
水無神社
宮司 宮田利彦
祢宜 宮田伊織

あづみ野
住吉神社
宮司 飯田泰之
氏子総代会長 小穴善一

松本市梓川梓鎮座
大宮熱田神社
宮司 山田充春

上水内郡小川村小根山鎮座
小川神社
宮司 宮下俊樹
祢宜 太田陽一
総代長 大日方健治

七二会鎮座
式内社
守田神社
宮司 櫻井龍一
主任総代 酒井健次
会計 成田眞一

木曽郡木曽町開田高原西野
八幡宮
宮司 神田肇
祢宜 毛利ゆき乃

長野市箱清水鎮座
湯福神社
宮司 齋藤安彦
祢宜 齋藤英之
権祢宜 齋藤友加里
権祢宜 齋藤紳悟

長野市東町鎮座
武井神社
宮司 齋藤吉睦

長野市松代町鎮座
象山神社
宮司 瀧澤基
祢宜 瀧澤けい子
権祢宜 瀧澤理恵

岡谷市小井川鎮座
小井川賀茂神社
宮司 有賀寛典

飯田市八幡町一九九九
鳩ヶ嶺八幡宮
（重要文化財誉田別尊神像）
宮司 伊原義雄
総代会長 中山明

国宝
仁科神明宮
大町市社宮本
宮司 松井秀吾
氏子総代会長 一志裕

伊那市荒井区
荒井神社
宮司 唐沢克忠
祢宜 唐沢光忠
総代会長 大槻四郎

長野市岩石町鎮座
えびすの神
西宮神社
宮司 丸山肇
役員総代一同

謹賀新年

安曇野市穂高有明字宮城
彫刻で名高き裕明門
有明山神社
宮司　山崎佳宏
総代会長　塚田銀稲

箕輪南宮神社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　征矢利雄
箕輪町大字中箕輪木下一二五〇〇

塩尻市中西条鎮座
三嶽神社
宮司　宇治橋牧子
権祢宜　宇治橋邦彦

塩尻市北小野鎮座
小野神社
宮司　宇治橋淳
祢宜　宇治橋邦彦
総代会長　青木俊樹

松本市村井町
神明宮
宮司　永持はな子
祢宜　宇治橋邦彦
権祢宜　小穴真希

伊那市御園区鎮座
白山社
宮司　伊藤光宣

長野市三輪鎮座
美和神社
宮司　齋藤吉睦
権祢宜　矢澤龍一

駒ヶ根市赤穂鎮座
大宮五十鈴神社
宮司　白鳥俊明
祢宜　白鳥操子
http://isuzujinja.com

長野市大町鎮座
長沼神社
宮司　長沼忠行
祢宜　長沼房子
権祢宜　長沼誠一

上伊那郡南箕輪村
殿村八幡宮
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　渡邉文善

長野市松代町皆神山
熊野出速雄神社
（皆神神社）
宮司代務者　武藤弘樹

奥州一之宮鹽竈神社御分社
鹽竈神社
宮司　大澤明三
祢宜　大澤節子
総代会長　青木三治

安曇野市豊科南穂高
洲波神社
宮司　宮澤佳廣

飯山市五束鎮座
（国重文若宮八幡社）
健御名方富命彦神別神社
宮司　髙橋穣
祢宜　髙橋晶
総代会長　伊東直幸

佐久市臼田鎮座
稲荷神社
宮司　伴野健一
総代会長　久義重

木曽郡南木曽町田立鎮座
県無形民俗文化財花馬祭り
五宮神社
宮司　髙橋邦衛

東筑摩郡麻績村麻鎮座
重要文化財
麻績神明宮
宮司　山崎洋文
役員会長　峰田祀

佐久市平賀鎮座
平賀神社
宮司　小間澤肇
祢宜　小間澤貴子
総代会長　高橋登

木曽郡上松町
諏訪神社

木曽郡上松町
駒嶽神社

謹賀新年

神社庁松塩筑支部
支部長 上條哲哉
副支部長 隠岐光洋
副支部長 小林司

千曲市若宮鎮座
佐良志奈神社
宮司 豊城憲和
主任総代 宮崎正光
外役員一同

「御朱印さんぽ」
八王子神社
宮司 平林秀文

長野市中条鎮座
式内 皇足穂命神社
諏訪社合殿
宮司 宮下俊樹
祢宜 宮川和工
総代長 上條直光

松本市神林鎮座
神林神社
宮司 宇治橋淳
総代会長 三村昌三

長野県神社庁参事

太田秀史

この度、昨年四月一日付を以ちまして神社本庁より長野県神社庁参事を拝命致しました。

もとより浅学菲才の身にて大任を拝し、職責の重さを痛感致しておりますが、誠心誠意職務遂行の為に精進致す覚悟でおりますので、今後共一層の御指導御鞭撻を戴き、前任者同様御高誼を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。

先ずは略儀ながら、謹んで新任の御挨拶を申し上げます。

編集後記

令和五年の卯の年の卯は双子葉類の芽が出る🌱の象形文字であります。すべてのことが芽生えて生成し発展する年です。

長野県神社庁においても新しい神殿に鎮座祭がおこなわれ、新しい神社庁の幕開けになります。コロナ禍という大きな試練を超えてみなさまによりよい年となりますように。

編集委員会一同

伊勢の神宮と
ナガシマスパーランドの旅
第 25 回子供参宮団
開催!!

参加者には
旅行の栞
抗原検査キット
事前に
配布します!

令和5年 3/22～23 日

対　　象:　**中学生以下**（小学３年生以下は保護者同伴）

募集人員:　100名　（同伴保護者含む）

旅行代金:　１名 20,000 円　保護者 22,000 円

宿　　泊:　神宮会館　（伊勢神宮崇敬会が運営するホテル）

申込期限:　令和5年２月 15 日（定員になり次第締め切り致します）
企　　画:　長野県神社庁
旅行実施:　アルピコ長野トラベル株式会社　官公庁長官登録旅行業第 669 号
申 込 先:　①長野県神社庁　〒380-0801　長野市箱清水 1-6-1　電　話 026-232-3355
ＦＡＸ 026-233-2720
②地区担当神職

◇新型コロナウイルスの感染状況により、開催の中止あるいは行程に変更が生じる場合がございます◇